

第3回 富山大学 研究推進フォーラム

環境編

温暖化はこのまま進むのか 地域の自然から見つめる循環のゆくえ

入場無料 [定員200名]

平成21年12月25日 [金] 13:00~17:00 開場12:30

富山大学理学部 2階 多目的ホール(五福キャンパス内)

主催:富山大学 後援:富山県、富山市

申込・問合せ:富山大学研究推進フォーラム 事務局(生活ネット研究所内)
〒939-8063 富山市小杉120 TEL076-428-9166

第1部:講演

特別講演「『地球温暖化』で日本の雨と雪はどう変わるか?」

安成 哲三 先生 名古屋大学地球水循環研究センター 教授

趣旨説明「高低差4,000m富山環境プロジェクト」

川村 隆一 先生 富山大学大学院理工学研究部 教授

講演1「富山から世界が見える—高低差4,000mの水・物質循環—」

張 勁 先生 富山大学大学院理工学研究部 教授

講演2「高低差4,000mに育まれる生物多様性と環境応答」

山崎 裕治 先生 富山大学大学院理工学研究部 准教授

講演3「富山から発信する環境対策技術!」

星野 一宏 先生 富山大学大学院理工学研究部 准教授

講演4「日本海・富山湾の海況とその予測」

松浦 知徳 先生 富山大学大学院理工学研究部 教授

第2部:ポスター発表(黒田講堂会議室)

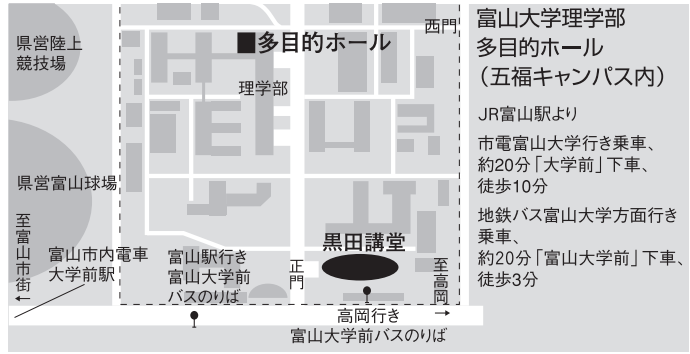
第3回 富山大学 研究推進フォーラム

環境編

温暖化はこのまま進むのか 地域の自然から見つめる循環のゆくえ

富山大学では「高低差4,000m富山環境プロジェクト」を推進しています。これは、標高3,000mの立山連峰から水深1,000mの富山湾までをコアフィールドに設定し、『地球環境の縮図モデル』と捉えることで、集中的に環境動態・生態系応答・環境修復の研究をフィールド内で展開するものです。本フォーラムでは、地球環境研究の最前線で活躍されている先生を講師にお迎えし、地球温暖化の現状の理解を進め、同時に、富山大学の環境研究を紹介する機会として開催します。

■ スケジュール	
第1部	13:00 あいさつ
	13:05 特別講演「『地球温暖化』で日本の雨と雪はどう変わるか?」 安成哲三 先生
	14:00 趣旨説明「高低差4,000m富山環境プロジェクト」 川村隆一 先生
	14:10 講演1「富山から世界が見える—高低差4,000mの水・物質循環—」 張 勁 先生
	14:35 休憩
	14:45 講演2「高低差4,000mに育まれる生物多様性と環境応答」 山崎裕治 先生
	15:10 講演3「富山から発信する環境対策技術!」 星野一宏 先生
	15:35 講演4「日本海・富山湾の海況とその予測」 松浦知徳 先生
16:00 質疑応答	
第2部	16:30 ポスター発表(黒田講堂会議室)
	17:00 交流会



■交流会 会費2,000円
フォーラム終了後、五福キャンパス内「黒田講堂会議室」にて交流会を開催します。講師の方々とは身近に意見交換いただけるチャンスです。多数のご参加をお待ちしております。

■参加のお申込み
※会場準備の都合から、事前申し込みにご協力ください。
※お申込みの際は、申込み欄に記入し、FAX076-428-9156までお送りください。
申込・問合せ:富山大学研究推進フォーラム 事務局(生活ネット研究所内)
〒939-8063 富山市小杉120 TEL076-428-9166

講師 講演要旨・プロフィール

「『地球温暖化』で日本の雨と雪はどう変わるか?」
安成 哲三 先生 名古屋大学地球水循環研究センター 教授
現在、温室効果ガス増加による『地球温暖化』が全球規模の環境問題として議論されている。確かに過去数十年、日本付近の気温も上昇進行し、その影響がさまざまなかたちで現れつつあるが、中でも、今後起こりうる最も深刻な問題は、日本海側を中心とする降積雪の激減の可能性である。それは過去一万年にわたる日本列島の文明と文化の発展の基礎となっていた海と陸の生態系、水資源、農業などに大きな影響を与えることになる。

【プロフィール】1977年京都大学大学院理学研究科博士課程修了。気候システムおよび 全球水循環システム変動、アジアモンスーン変動、気候-生命圏相互作用の研究に携わる。秩父宮記念学術賞、日本気象学会賞、日経地球環境技術賞、水文・水資源学会国際賞、モンゴル国自然環境功労研究者賞など受賞。日本学術会議会員。

「富山から世界が見える—高低差4,000mの水・物質循環—」
張 勁 先生 富山大学大学院理工学研究部 教授
富山湾の表層には赤道生まれの黒潮から分流した対馬暖流が滑り込み、一方で北アルプス立山連峰の高山地帯は殆ど北極圏周辺や寒帯と同じ気候・植生となっている。この熱帯から極域までの環境を網羅している富山は地球環境の縮図と考えられ、環境とその変化を調査する格好なモデル地域となりうる。講演では、我々がやっている近年の研究結果を中心に紹介する。

【プロフィール】微量元素と同位体を手段に環境、特に縁辺海に関わる物質循環とそのメカニズムを研究。1995年東京大学大学院理学系研究科博士課程(東京大学海洋研究所)修了。博士(理学)。科学技術庁放射線医学総合研究所研究員を経て、98年より富山大学に勤務。国際大型海洋研究GEOTRACES計画の国際運営委員会委員。日本地下水学会若手優秀講演賞、とやま賞受賞。

「高低差4,000mに育まれる生物多様性と環境応答」
山崎 裕治 先生 富山大学大学院理工学研究部 准教授
富山に生息する多種多様な生物は、高低差4,000mに広がる複雑かつ多彩な空間によって育まれている。一方で昨今の環境変化や外来生物の侵入は、生物の多様性に深刻な影響をもたらすと考えられる。富山の生物が織りなす多様性や、環境の変動に対する生物達の応答を見つめ、本プロジェクトでの取り組みについて紹介したい。

【プロフィール】1993年北海道大学水産学部水産増殖学科卒業。98年同大学院水産学研究科博士課程修了。博士(水産学)。日本学術振興会特別研究員(福井県立大学、東京大学)、富山大学理学部生物学科助手を経て、2007年より現職。専門分野は進化生物学、保全遺伝学。最近では地元富山の野生生物保護のための遺伝学および生態学的研究を展開。2007年度日本魚類学会奨励賞受賞。

「富山から発信する環境対策技術!」
星野 一宏 先生 富山大学大学院理工学研究部 准教授
豊富な水に恵まれている富山は水の王国といわれる。しかし、近年の人間生活の営みに伴い、環境汚染物質の流入による河川や海水の悪化が徐々に進行してきた。そこで、富山の生活排水の現状を紹介するとともに、環境指標となる微生物の特異的計測法や生物の機能を活用した環境浄化法の開発など新規な取り組みを紹介する。

【プロフィール】1986年新潟大学工学部化学工学科卒業。91年同大学自然科学研究科博士課程修了(学術博士)。富山大学工学部助教授などを経て2005年より現職。生物の機能を利用した有用物質生産や環境修復の研究に携わる。96年化学工学会玉置明善記念賞受賞。NEDOバイオマス先端技術開発「中長期的先端技術」プロジェクトリーダー。

「日本海・富山湾の海況とその予測」
松浦 知徳 先生 富山大学大学院理工学研究部 教授
富山湾は陸域からの淡水流入と日本海からの外洋水(対馬暖流等)により水塊交換が活発であり、豊かな海洋生態系を育んできた。その海況の実態把握とともに地球温暖化等の環境変化により将来の海況の予測が課題となっている。高低差4,000m富山環境プロジェクトにおける海況予測研究を中心に今後の研究内容を紹介する。

【プロフィール】1977年九州大学工学部水工土木科卒業、79年同大学院修士課程修了。85年理学博士(九州大学)。茨城大学助手、USAテキサスA&M大学研究員、防災科学技術研究所勤務を経て現職。地球流体力学、気候変動の研究を行うとともに、プロジェクトリーダーとして大気海洋結合モデルの開発に携わる。94年科学技術庁業績表彰受賞。

第3回 富山大学研究推進フォーラム [環境編] 参加申込書

FAX.076-428-9156

ふりがな 氏 名	
ふりがな 氏 名	
交流会	参加します [人] 参加しません ※会費2,000円(当日お支払いください)

代表者 住 所	〒
電 話	

※ご記入いただいた個人情報は、このフォーラム開催のみに使用し、その他の目的には使用いたしません。
紙へのリサイクル可

12月21日(月)までにファックスをお送りください